

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 36-38
タイトル	サケの遡上 ― 平成 17 年詳細記録 ―
著 者 名	五十嵐豊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

サケの遡上 — 平成 17 年詳細記録 —

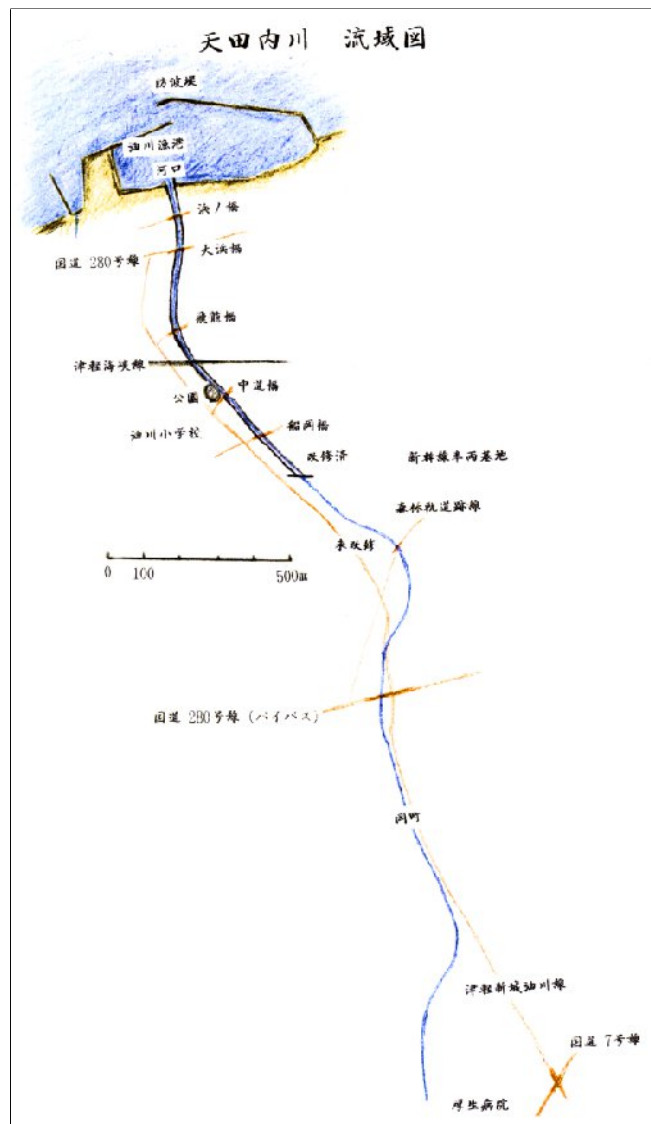
第 6 代 五十嵐 豊

一昨年(平成 16(2004)年)、青森市油川の中央を流れている天田内川に大量(数千匹)のサケが遡上したことは、やぶなべ会報第 17 号で報告した。この中で、昨年(平成 17(2005)年)は恐らく大量には遡上しないだろうと予想した。ところが予想に反し、一昨年の十分の一ではあるが 昨年も数百匹の遡上が見られた。速報をやぶなべ会報 19 号に出したが、観察をもとに再び報告する。

図に天田内川の流域図を示した。平成 6 年から始まった河川の改修拡張工事は、平成 15 年までに河口からおよそ 1km 若が完成し、その後は中断している([写真2~4])。未改修の川は両岸がコンクリートの水路になっている([写真5])。

10 月 9 日公園付近で 2 匹 の♀に気づいたのが最初で、この日は河口から森林軌道跡線まで探したがこの 2 匹だけであった。10・11 日は 0、15 日には公園下流で 9 日と同じ個体と思われる 2 匹が見られた。16 日には上流の未改修の水路で 3 匹、17 日は 0、18 日は水路で 2 匹、20 日は公園から河口まで探したが見つけれなかった。21 日は 18 日と同じ水路で同じ個体と思われる 2 匹、この日は森林軌道跡線から上流部厚生病院付近まで探したがを見つけることは出来なかった。軌道跡の橋の下は崩壊して段差が大きくなったので、おそらくここを遡上することは出来ないものと思われた([写真6])。24 日は公園で 2 匹、水路で 1 匹、25・27 日は 0 であった。ここまではこの数匹だけの遡上だったのだろう。30 日軌道跡の橋の下で 5 匹以上が見られ、密猟者がヤスで 1♀を捕獲していた。この頃から遡上が多くなったようで、11 月 1 日には軌道跡下で 8 匹、公園で 2 匹と死骸 1 を見つけた。

11 月 8 日には 30 匹ほど、11 日には 40 ~ 50 匹は遡上したようで、ユリカモメが 14、5 羽飛来していた。14 日には軌道跡下で 5~6 匹が群遊していたが、途中までに 5 匹の死骸が見られた。この頃から産卵の済んだ個体は死んで行くようであった。17 日には公園から船岡橋の間で 20~30 匹、全体では 100 匹以上見られた。21 日、河口から軌道跡まで調べたが、河口から浜ノ橋までに 5 匹、大浜橋 まで 10 匹、飛龍橋まで 10 匹、中道橋まで 15 匹、船岡橋まで 10 匹、改



[図 1] 天田内川流域図



[写真1] 遡上したサケ

修済まで 10 匹、未改修の水路で 14 匹、軌道跡下で 6 匹と合計 80 匹が川全体に見られ、他に数匹の死骸が見られた。23 日は河口から飛龍橋までに 10 数匹、26 日には公園付近で 20 匹が観察された。11 月 29 日は前日から大雨で濁流になったが、12 月 3 日、公園付近で 10 匹、死骸も数 10 匹見られた。5 日、河口から軌道跡までの調査では、河口から大浜橋まで 5 匹、飛龍橋まで 5 匹、公園まで 10 匹、中の橋まで 10 匹、船岡橋まで 10 匹、改修済みまで 10 匹、水路で 10 匹、軌道跡下で

10 匹、合計 70 匹、死骸が全体で 50 匹見られた。7 日、水量が少なかったのも、再び調査してみた。大浜橋まで 10 匹、飛龍橋まで 5 匹、公園で 10 匹、船岡橋まで 40 匹、改修済みまで 15 匹、水路から上流では見られず、合計で 80 匹、死骸は全体で 105 匹であった。10 日には大雪になったが、11 日に公園で 6 匹見られた。13 日、再び大雪になり、以降観察が出来なくなった。

以上で昨年のサケ遡上の観察記録は終了したが、去年はどれくらい遡上したのだろうか。12 月 7 日の調査で、生存 80 匹、死骸 105 匹の結果から、少なくとも 200 匹以上は遡上したものと思われる。

数匹の遡上であれば、迷い込んだものと納得するのだが、2 年続けての多くの遡上は 何故なのだろうか。サケは生まれた(放流した)川に遡上するのに、この川では放流もされず、もちろん自然での稚魚が生まれていたとは考えられない。



[写真2] 河口(油川港)



[写真3] 改修工事終了部分(中道橋付近)



[写真4] 改修工事中断箇所



[写真5] 未改修部分

昨年(平成 17 年)11 月 8 日 の東奥日報に「あつ、サケだ」と青森市久須志の古川中学校付近を流れる「万太郎堰」でサケ一匹が遡上、の記事が掲載された。記事の中で 県水産振興課によると、県はふ化放流事業として、毎年一億三千万匹のサケの稚魚を、県内十三の増殖河川に放流している。青森市内に対象の河川はないため、今回のサケは、清水川(平内町)、野辺地川、川内川などに放流した稚魚が、沖館川に迷い込んで遡上してきた可能性が高いという。04 年度に県内で確認されたサケの遡上は二十九万匹で過去最高を記録しており、同課は「ふ化放流事業の効果が出ているのでは」とも話している。とあった。

この記事から、天田内川のサケもこの放流事業の効果なのだろうか。それにしても多い。天田内川の河口の油川漁港は防波堤で囲まれている。この防波堤は平成 10 年頃に完成した。陸奥湾沿岸を回遊してきたサケの一部が、この防波堤で行き場を失い天田内川に遡上したのだろうか。この可能性が高いとすると、今年も期待出来そうである。軌道跡線通り下の護岸の崩壊は改修され、段差も解消された([写真7])。もし今年もサケの遡上があれば、上流部の自然の残されている所まで遡上し、自然ふ化の稚魚が生まれるかも知れない。楽しみにしている。

(2006・4・20 記)



[写真6] 軌道跡下の崩壊箇所(段差が大きい)



[写真7] 改修された崩壊箇所